

## 令和4年度 児童発達支援自己評価結果(事業所)

公表： 令和5年1月11日

配布数：16

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境や体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	11	3	単独通園児の定員増加により、部屋の利用を工夫している。
	職員の配置数は適切であるか。	9	5	活動によって、職員を配置工夫したり、休憩を時間差で取るなどしている。
	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	13	1	「み・こ・し・て・よ」の声かけはもちろん、視覚支援も行っている。 朝の支度やトイレなど、視覚支援されている。
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	1	日々の掃除、消毒も1時間以上かけており、それぞれの活動も適した空間で行っている。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14		アクシデントレポートや復命書等の書式はPDCAサイクルに対応している。また、毎日終礼を行い、職員の振り返りを行なっている。 業務の見直しを重点において行っており、会議等で積極的に話し合いの場がもたれている。
	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	14		保護者アンケート等により出された意向については真摯に受け止め、改善を図っている。
	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	14		
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14		3年に1度受審する予定となっている。
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	14		保育後や土曜日にオンラインで行われる研修に参加する等研修参加に工夫している。 様々な研修があり、様々な職員が参加できている。
	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14		面談時には保護者と現状の確認、今後の課題、困りごとなどをしっかりすり合わせるようにしている。支援計画の内容を職員間でどう共有していくかが課題となっている。
適切な支援の提供	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	14		
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14		
	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	14		毎月のまとめの中で所感・ビジョンを記載し次の月に活かしている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	1	終礼で得た反省を次回に活かすようにしている。併用通園児が増えてきているため、日々の積み重ねとなる活動プログラムの設定が課題となっている。
適切な支援の提供	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか。	13	1	新しい保育内容を考えて、できるかぎりの工夫をしている。途中入園児、年齢や発達の差が子どもに対するプログラムの設定が課題となっている。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適時組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか。	14		
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	14		朝礼を毎日行い当日の活動の確認を行っている。前日の終礼で翌日の活動について話し合っている。朝礼、終礼に参加していない職員は連絡ノートにて確認している。
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	14		毎日、終礼をおこない、共有している。終礼に参加していない職員は連絡ノートにて確認している。
	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14		記録ソフトであるFTケアへの入力を徹底している。
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	14		
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	14		
	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	14		
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14		卒園児全員に対し、サポートブックの作成をおこなっている。アフターケアとして、進路先を訪問し様子伺いを行うようにしている。
	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1	卒園児全員に対し、サポートブックの作成をおこなっている。アフターケアとして、進路先を訪問し様子伺いを行うようにしている。
	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	13	1	見学研修等を行っている。
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。	7	7	利用者がそれぞれで交流保育に参加している。法人内の保育園との交流は打ち合わせを行い、コロナの収束後に開始する予定となっている。
	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	11	3	
日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14		連絡帳への記入や登園、降園時の連絡(口頭)を徹底している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援(相談、勉強会、ペアレント・トレーニング等)を行っているか。	13	1	年間で勉強会の計画を立てて開催している。保護者にもアンケートをとり、勉強会の内容を検討している。
	重要事項説明書をもとに運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14		
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14		
	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	14		定期的に面談を行っている。必要に応じて個別に相談できる時間を設けている。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	11	3	分離保育の時間を設け、座談会等を実施している。コロナ禍や個人情報保護の観点から、保護者同士の交流や連絡が取りづらい状況になっている。併用通園児の保護者会活動が課題となっている。
	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14		相談や申し入れについては、できる限り迅速に対応している。また、会議等で対応をどうするかを話し合っている。
	定期的におたより等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14		「くすのきだより」を発行している。外国籍の方はひらがなにして読みやすくしている。掲示板も活用している。
	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	14		ホームページや広報紙に写真等を載せる場合、配慮している。
	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14		外国籍の方とはポケットクやアプリを使用してコミュニケーションを図るようにしている。
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	10	コロナ禍のため福祉まつりなどが行えていない。
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	1	マニュアルを策定し、訓練はしているが、周知の面では課題となっている。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。	14		毎月避難訓練をしている。
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13	1	一覧表を作成し、把握している。
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14		給食の配膳は間違えの無いように、必ず除去食を配ってから、他の子に配るようにしている。

チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
<p>アクシデント・インシデント事例集を作成して事業所内で共有しているか。</p>	14		<p>アクシデントレポートが提出された際は、翌日の朝礼で報告し、FTケアと連絡ノートを使って周知している。</p>
<p>虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。</p>	14		<p>不適切対応防止のチェックリストを行い、自身の支援等を振り返る機会をつくっている。研修を実施している。</p>
<p>どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	11	3	